



Sun Fire™ V125 サーバー 設置マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-7632-10
2006 年 10 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品のの一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun Fire、Java、OpenBoot は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Fire V125 Server Installation Guide
Part No: 819-7422-10
Revision A



目次

はじめに vii

1. Sun Fire V125 サーバーの設置の概要 1
 - 設置作業の概要 1
 - 出荷キットの内容確認 2
 - Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアの使用 3
2. ハードウェアの取り付け 5
 - ラックマウントキットの内容 5
 - 使用できるラック 5
 - スライドレールの取り付け 6
 - ▼ スライドレールを分解する 6
 - ▼ 固定部品をサーバーに取り付ける 7
 - ▼ スライドレール部品をラックに取り付ける 7
 - ▼ サーバーをスライドレール部品に取り付ける 9
3. サーバーの電源投入と設定 11
 - 状態インジケータの理解 11
 - サーバーへの電源投入 11
 - ▼ キーボードを使用して電源を入れる 12
 - ▼ オン/スタンバイボタンを使用して電源を入れる 13

サーバーの設定 13

- ▼ ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用して設定する 14
- ▼ ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用せずに設定する 14
- ▼ スタンドアロンサーバーをはじめて設定する 15

構成情報の消去 16

- ▼ 構成情報を消去する 16

Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアへのアクセス 16

- ▼ ALOM プロンプトを表示する 17
- ▼ コンソールプロンプトを表示する 17

図目次

- 図 2-1 取り付け前のスライドレールの分解 7
- 図 2-2 ラックポストへのスライドレール部品の取り付け 8
- 図 2-3 固定部品を取り付けたサーバーのスライドレールへの挿入 9
- 図 2-4 スライドレールロック 10

はじめに

このマニュアルでは、Sun Fire™ V125 サーバーのラック搭載および構成について詳細に説明します。

お読みになる前に

このマニュアルに記載されている手順を実行する前に、設置場所を準備し、最新の『ご使用にあたって』をお読みください。設置作業を開始する前に、次のマニュアルを参照してください。

- 『Sun Fire V125 サーバーご使用の手引き』
- 『Sun Fire V125 Server Product Notes』

これらのマニュアルの参照先については、x ページの「関連マニュアル」を参照してください。

設置作業を完了するには、Sun™ のプリインストールソフトウェアのサイトにアクセスして、特定の構成に関する指示、ソフトウェアアップデート、およびパッチを確認してください。

マニュアルの構成

第 1 章では、設置作業の説明、出荷キットの内容一覧、および Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアの使用法の概要について説明します。

第 2 章では、ラックマウントキットの一覧、互換性のあるラックの一覧、およびサーバーのラックへの搭載に関する注意点について説明します。

第 3 章では、状態インジケータの概要と、サーバーの電源投入、コンソールの接続、およびプリインストールソフトウェアの構成の手順について説明します。

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX[®] コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris[™] オペレーティングシステムのマニュアル
<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine-name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
AaBbCc123	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep `^#define` \ XV_VERSION_STRING'

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

関連マニュアル

オンラインのマニュアルは、次の URL で参照できます。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/>

用途	タイトル	Part No.	形式	場所
ご使用の手引き	『Sun Fire V125 サーバーご使用の手引き』	819-7623	PDF および HTML	オンライン
管理	『Sun Fire V125 サーバー管理マニュアル』	819-7641	PDF および HTML	オンライン
保守	『Sun Fire V125 サーバーサービスマニュアル』	819-7650	PDF および HTML	オンライン
安全性および適合性	『Sun Fire V125 Server Safety and Compliance Manual』	817-7425	PDF および HTML	オンライン
最新情報	『Sun Fire V125 Server Product Notes』	819-7424	PDF および HTML	オンライン
OpenBoot™ PROM	『OpenBoot PROM Enhancements for Diagnostics Operation』	817-6957	PDF	オンライン
ALOM	『Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) 1.6 管理マニュアル』	819-7955	PDF および HTML	オンライン

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
-----------	-----

マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/
-------	---

サポート	http://jp.sun.com/support/
------	---

トレーニング	http://jp.sun.com/training/
--------	---

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Fire V125 サーバー設置マニュアル』、819-7632-10

第1章

Sun Fire V125 サーバーの設置の概要

この章では、Sun Fire V125 サーバーについて説明し、設置作業の概要を示します。この章は、次の節で構成されています。

- 1 ページの「設置作業の概要」
 - 2 ページの「出荷キットの内容確認」
 - 3 ページの「Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアの使用」
-

設置作業の概要

この節では、設置作業の概要について説明します。作業の各手順には、完了する必要がある適切な手順の参照先が示されています。各手順は順番に完了する必要があります。

1. 電源、スペース、および環境の要件に従って、設置場所を準備します。

サーバーを新しい Sun ラックに取り付ける場合は、設置場所の準備を全面的に行う必要があります。サーバーを既存のラックに取り付ける場合は、追加の電源要件および環境要件を満たすように、設置場所の準備をいくつか実施する必要があります。特定の手順については、『Sun Fire V125 サーバーご使用の手引き』を参照してください。

2. 部品がすべてそろっていることを確認します。

Sun Fire サーバーは、いくつかのパッケージで出荷されます。出荷キットの一覧については、2 ページの「出荷キットの内容確認」を参照してください。

3. サーバーをラックに取り付けます。

4. サーバーとの通信用にコンソールを設定します。

Sun Fire サーバーとの通信は、ほかのサーバーからの TIP 接続を使用するか、または SERIAL MGT ポートに ASCII 端末を接続して行います。コンソールを設定するには、『Sun Fire V125 サーバー管理マニュアル』を参照してください。

5. サーバーに電源を入れて、設定します。

サーバーには、Solaris 10 オペレーティングシステム (Solaris OS) および Java™ Enterprise System がプリインストールされています。サーバーに電源を入れると、自動的に Solaris OS の設定手順に進みます。ただし、その前に、プリインストールされているソフトウェアの Web サイトにアクセスして、最新のアップデートおよびパッチを確認する必要があります。

サーバーに電源を入れてプリインストールされているソフトウェアを構成するには、11 ページの「サーバーへの電源投入」を参照してください。

6. 必要な OpenBoot PROM 構成オプションを設定します。

最初の起動ではシステム全体がテストされます。テストのレベルを変更するには、OpenBoot PROM コマンドおよび構成変数を使用します。起動テストのレベルおよびその他の起動変数を変更するには、『OpenBoot PROM Enhancements Operations』を参照してください。

7. Solaris メディアキットから追加ソフトウェアをインストールします (任意)。

Solaris OS メディアキットには、サーバーの運用、構成、および管理を支援するためのソフトウェアを収録した複数の CD が含まれています。収録されているすべてのソフトウェアの一覧および詳細なインストール手順については、メディアキットに付属するマニュアルを参照してください。

出荷キットの内容確認

このサーバーには、いくつかの部品が付属しています。出荷キットにすべての部品が含まれていることを確認してください。足りない部品がある場合は、ご購入先にお問い合わせください。

- ラックマウントキット
- Cat5 RJ-45 ケーブル
- アクセサリキット
 - RJ-45/DB-9 アダプタ
 - RJ-45/DB-25 アダプタ
 - Sun の製品マニュアル

注 - 出荷キットの内容は、注文したオプションによって異なる場合があります。一覽で記載したような基本的な部品がすべて出荷キットに含まれていることを確認してください。

Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアの使用

Sun Fire V125 サーバーは、Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) ソフトウェアがインストールされた状態で出荷されます。システムコンソールは、デフォルトで ALOM に接続され、起動時にサーバーコンソールの情報を表示するように設定されています。

ALOM を使用すると、SERIAL MGT ポートを使用したシリアル接続、または NET MGT ポートを使用した Ethernet 接続のいずれかを介してサーバーを監視および制御できます。

注 - 「SERIAL MGT」のラベルが付いた ALOM のシリアルポートは、サーバー管理専用のポートです。汎用シリアルポートが必要な場合は、「10101」のラベルが付いたシリアルポートを使用してください。

ALOM は、サーバーまたは ALOM に関連するハードウェア障害およびその他のイベントを、電子メールで通知するように設定できます。

ALOM 回路は、サーバーのスタンバイ電力を使用します。そのため、次の動作が可能です。

- ALOM は、サーバーが電源に接続されるとすぐに動作し、電源ケーブルを外して電力を切断するまで動作し続けます。
- ALOM は、オペレーティングシステムがオフラインで、サーバーがスタンバイモードになっているときにも動作し続けます。

ALOM の詳細は、『Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) 1.6 管理マニュアル』を参照してください。

第2章

ハードウェアの取り付け

この章では、Sun Fire V125 サーバーをラックに取り付けてケーブルを接続する方法について説明します。この章は、次の節で構成されています。

- 5 ページの「ラックマウントキットの内容」
- 5 ページの「使用できるラック」
- 6 ページの「スライドレールの取り付け」

ラックマウントキットの内容

ラックマウントキットには、次の部品が含まれています。

- スライド部品
- スペーサ工具
- ねじキット

使用できるラック

スライドレールキットを使用すると、サーバーを Sun のラックに搭載できます。使用できるすべてのラックの一覧については、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/>

スライドレールを使用してサーバーを4ポストラックに取り付けるには、この章の手順を記載されている順に実行します。これらのスライドレールは、次の基準を満たすさまざまな装置ラックで使用できます。

- 4ポスト構造である(正面および背面の両方に搭載)。2ポストラックには使用できない。
- ラックの水平方向の開口部とユニットの垂直方向のピッチが ANSI/EIA 310-D-1992 または IEC 60927 規格に準拠している。
- 正面と背面の取り付け面の間隔が 610 ~ 915 mm (24 ~ 36 インチ) である。
- 正面の取り付け面から手前側の、キャビネットの正面ドアまでの距離が 25.4 mm (1 インチ) 以上である。
- 正面の取り付け面から後ろ側の、キャビネットの背面ドアまでの距離が 800 mm (31.5 インチ) 以上、または 700 mm (27.5 インチ) 以上である。
- 正面の取り付け面と背面の取り付け面の間の、構造支柱とケーブルの溝との間の距離が 456 mm (18 インチ) 以上である。



注意 – 上部の重みでラックが転倒しないように、装置は常にラックの下から順に取り付けてください。装置の設置作業中にラックが倒れないように、転倒防止バーを使用してください。

スライドレールの取り付け

この節では、スライドレール部品をラックに取り付けてから、ラックに取り付けたスライドレール部品に、固定部品を使用してサーバーシャーシを搭載する手順について説明します。

▼ スライドレールを分解する

1. スライドレールを開梱します。
2. 図 2-1 に示すように、1つのスライドレール部品の正面側にあるスライドレールロックの位置を確認します。
3. ロックの上下の爪を強くつまんだ状態で、レール止めに届くまでスライドレール部品から固定部品を引き出します。
詳細は、図 2-1 を参照してください。
4. 図 2-1 に示すように、固定部品のリリースボタンを固定部品の正面方向に引きながら、同時に固定部品をスライドレール部品から引き出します。

5. 残りのスライドレール部品に対して同じ作業を繰り返します。

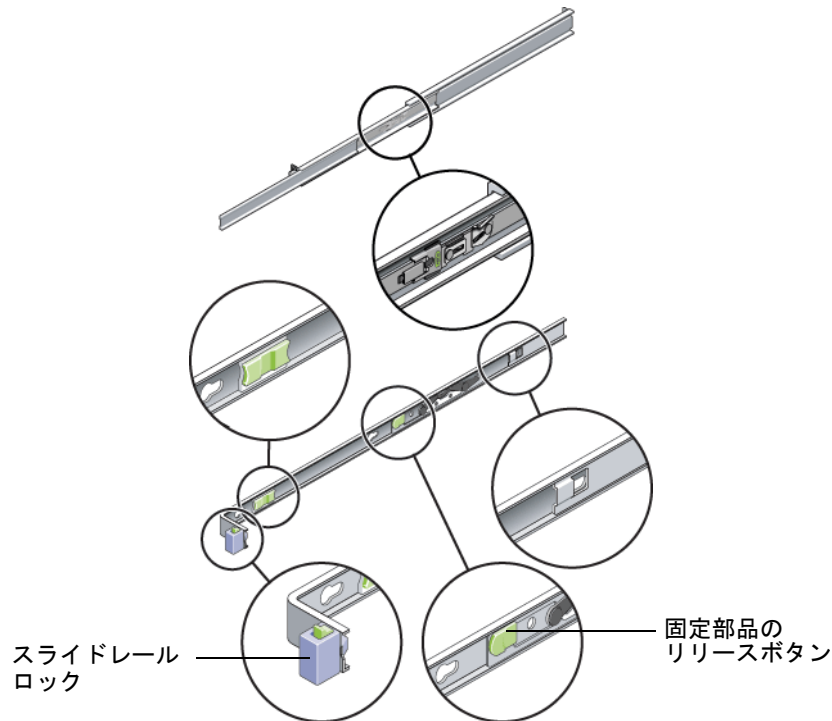


図 2-1 取り付け前のスライドレールの分解

▼ 固定部品をサーバーに取り付ける

1. スライドレールロックがサーバーの正面側になり、固定部品の 3 か所のはめ込み式の穴がシャーシ側面の 3 つのねじ穴にそろえるように、固定部品をシャーシに配置します。
2. 提供されているねじを使用して、スライドレールをサーバーに取り付けます。
3. 手順 1 および 2 を繰り返して、もう一方のスライドレールも取り付けます。

▼ スライドレール部品をラックに取り付ける

1. 図 2-2 に示すように、スライドレール部品の両端の留め具が正面および背面のラックポストの外側に位置するように、スライドレール部品をラックに配置します。

2. スライドレール部品をラックポストに取り付けます。

スライドレールの取り付け方法は、ラックの種類によって異なります。

- 使用しているラックのラックポストに取り付け用ねじ穴がある場合は、ねじ山の単位がメートルまたはインチのどちらであるかを確認してから、正しい取り付けねじをスライドレールの留め具を通してねじ穴に挿入します。
- 使用しているラックに取り付け用ねじ穴がない場合は、スライドレールの留め具とラックポストの両方に取り付けねじを挿入してから、ケージナットで固定します。

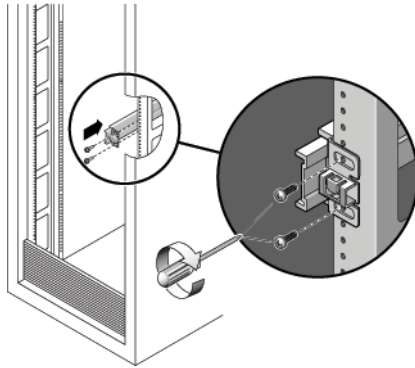


図 2-2 ラックポストへのスライドレール部品の取り付け

3. 残りのスライドレール部品に対して同じ作業を繰り返します。

▼ サーバーをスライドレール部品に取り付ける



注意 – サーバーはかなりの重量があるため、この手順は2人以上で行う必要があります。この手順を単独で実行しようとすると、装置の故障や事故が発生する可能性があります。

1. スライドレール部品に、スライドレールをできるかぎり押し込みます。
2. サーバーを持ち上げて、固定部品の背面側の端と、装置ラックに取り付けられているスライドレール部品の位置を合わせます (図 2-3 参照)。
3. 固定部品をスライドレールに差し込み、固定部品がスライドレール止めで止まるまで、サーバーを 30 cm (12 インチ) ほどラックに押し込みます。

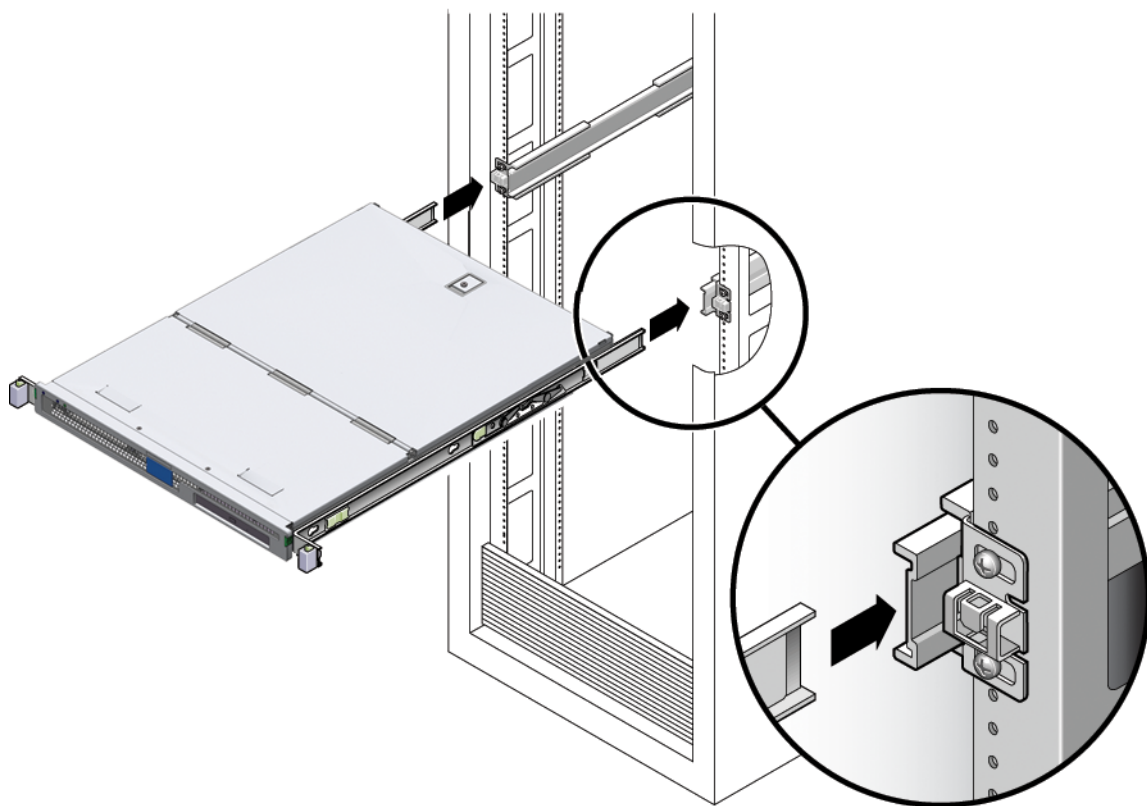


図 2-3 固定部品を取り付けたサーバーのスライドレールへの挿入

4. 各固定部品のスライドレールリリースボタンを引きながら、同時にサーバーをラックに押し込みます (図 2-3 を参照)。

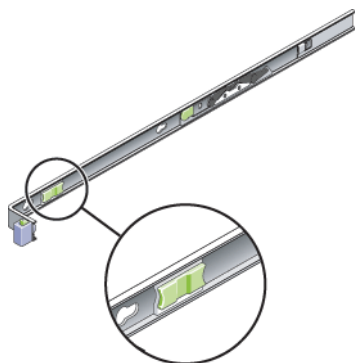


図 2-4 スライドレールロック

5. 固定部品の正面側にあるスライドレールロックがスライドレール部品とかみ合うまで、サーバーをラックに押し込みます。



注意 – 次の手順へ進む前に、サーバーがしっかりとラックに搭載され、スライドレールロックが固定部品とかみ合っていることを確認してください。

第3章

サーバーの電源投入と設定

この章では、目的に応じたサーバーへの電源投入方法および設定方法について説明します。この章は、次の節で構成されています。

- 11 ページの「状態インジケータの理解」
- 11 ページの「サーバーへの電源投入」
- 13 ページの「サーバーの設定」
- 16 ページの「Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアへのアクセス」

状態インジケータの理解

サーバーの電源を入れる前に、サーバー自体やさまざまな部品に関連付けられているLED インジケータについて理解しておいてください。サーバーの状態インジケータは、ベゼルおよび背面パネルの両方にあります。状態インジケータに関する詳細は、『Sun Fire V125 サーバー管理マニュアル』を参照してください。

サーバーへの電源投入

サーバーに電源を入れるには、正面ベゼルの後ろにあるオン/スタンバイボタン、またはキーボードを使用します。キーボードから電源を入れると、サーバーの電源が入ったときにシステムの出力を確認できます。

▼ キーボードを使用して電源を入れる

1. サーバーを電源装置に接続します。

電源に接続すると、サーバーは自動的にスタンバイ電力モードになります。

2. SERIAL MGT ポートへの接続を設定します。

詳細は、『Sun Fire V125 サーバー管理マニュアル』を参照してください。

はじめて電源を入れたあとに ALOM プロンプトに切り替えたときは、admin ユーザーとしてのログインとなり、パスワードの設定を求めるプロンプトが表示されず。一部のコマンドを実行するには、このパスワードを設定する必要があります。

3. パスワード指定のプロンプトが表示されたら、admin ユーザーのパスワードを設定します。

パスワードは、次の条件を満たす必要があります。

- 2 文字以上の英字が含まれていること
- 1 文字以上の数字または特殊文字が含まれていること
- 6 文字以上の文字列であること

パスワードの設定後、admin ユーザーには完全なアクセス権が与えられ、すべての ALOM コマンド行インタフェース (CLI) のコマンドを実行できるようになります。

4. サーバーに接続されているすべての周辺デバイスおよび外部記憶デバイスの電源を入れます。

詳細は、各デバイスに付属するマニュアルを参照してください。

5. コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力してサーバーに電源を入れます。

```
sc> poweron
```

6. コンソールのプロンプトで、次のように入力してサーバーにアクセスします。

```
sc> console
```


▼ オン/スタンバイボタンを使用して電源を入れる



注意 – システムの電源が入っているときに、システムを移動しないでください。移動すると、修復不可能なハードドライブ障害が発生することがあります。システムを移動する前に、必ず電源を切ってください。

1. サーバーを電源装置に接続します。
電源に接続すると、サーバーは自動的にスタンバイ電力モードになります。
2. サーバーに接続されているすべての周辺デバイスおよび外部記憶デバイスの電源を入れます。
詳細は、各デバイスに付属するマニュアルを参照してください。
3. 正面ベゼルを開きます。
4. オン/スタンバイボタンを押します。
5. 正面ベゼルを閉じます。

サーバーの設定

Product Name サーバーは、Solaris 10 OS および Java Enterprise System がハードドライブにプリインストールされた状態で出荷されます。サーバーの電源をはじめて入れると、一連の質問が表示され、設定手順に進みます。設定手順は、いくつかの質問で構成されています。この質問に答えることで、サーバーの構成が決まります。

OpenBoot PROM 4.22.17 では、デフォルトで診断が使用可能になっています。これによって、最初の起動時、およびエラーまたはリセットイベント後に、完全な診断テストが確実に実行されます。この変更により、起動時間は長くなります。最初の起動後および最初にサーバーを構成したあとに診断設定を変更するには、『OpenBoot PROM Enhancements for Diagnostic Operation』を参照してください。

次の中から使用するシステムの構成にもっとも適した項目を選択して、その説明に従ってサーバーの電源を入れて設定を行なってください。

- 14 ページの「ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用して設定する」
- 14 ページの「ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用せずに設定する」
- 15 ページの「スタンドアロンサーバーをはじめて設定する」
- 16 ページの「構成情報を消去する」

▼ ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用して設定する

注 - ここに示す手順は、ネットワークにネームサーバーが接続されている場合にのみ行なってください。ネームサーバーを使用して、複数のサーバー上の Solaris OS の設定作業を自動化する方法については、Solaris OS CD に付属する『Solaris のインストール (上級編)』を参照してください。

起動中にいくつかの情報の入力が必要です。ここで入力した情報によって、サーバーの構成が決まります。

1. サーバーとの通信に使用する端末の種類を指定します。
2. IPv6 を使用可能にする必要があるかどうかを指定し、画面に表示される指示に従います。
3. Kerberos セキュリティー機構を使用可能にするかどうかを指定し、画面に表示される指示に従います。
4. パスワードの入力を求められたら、スーパーユーザーとしてログインするユーザーのパスワードがある場合はそれを入力します。

▼ ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用せずに設定する

ここに示す手順は、ネットワークにネームサーバーが接続されていない場合に行なってください。

参考 - ここに示す手順を行う前に、説明をひととおり読んで、はじめて起動したときにシステムに入力する情報を確認しておいてください。

起動中にいくつかの情報の入力が必要です。ここで入力した情報によって、サーバーの構成が決まります。

1. サーバーとの通信に使用する端末の種類を指定します。
2. サーバーをネットワークに接続するかどうかを確認する質問が表示されたら、Yes と答えます。
プロンプトが表示されたら、手動で IP アドレスを入力する必要があります。
3. IP アドレスを DHCP によって設定するかどうかを指定します。
4. プライマリ Ethernet 接続として使用する Ethernet ポートを指定します。

5. サーバーのホスト名を指定します。
6. 入力を求められたら、システムの IP アドレスを入力します。
手順 3 で DHCP 設定を選択しなかった場合は、IP アドレスの入力を求められます。
また、サーバーをサブネットに含めるかどうかを質問されます。Yes と答えると、サブネットマスクの入力を求められます。
7. IPv6 を使用可能にする必要があるかどうかを指定し、画面に表示される指示に従います。
8. Kerberos セキュリティ機構を使用可能にするかどうかを指定し、画面に表示される指示に従います。
9. サーバーが使用するネームサービスを指定します。
10. サーバーが属するドメインの名前を指定します。
11. システムがネットワーク上でネームサーバーを検索するか、または特定のネームサーバーを使用するかを指定します。
12. 特定のネームサーバーを使用する場合は、そのネームサーバーのホスト名および IP アドレスを指定します。
13. ネームサーバーで、プロンプトに従って、設定しているシステムのネットワーク管理ファイルにエントリを作成します。
14. 設定しているシステムで、プロンプトに従って日時情報を入力します。
15. パスワードの入力を求められたら、スーパーユーザーとしてログインするユーザーのパスワードがある場合はそれを入力します。

▼ スタンドアロンサーバーをはじめて設定する

1. サーバーとの通信に使用する端末の種類を指定します。
2. サーバーをネットワークに接続するかどうかを確認する質問が表示されたら、No と答えます。
3. サーバーのホスト名を指定します。
4. これまでに入力した情報を確認します。
5. 日時情報を入力します。
6. パスワードの入力を求められたら、スーパーユーザーとしてログインするユーザーのパスワードがある場合はそれを入力します。

構成情報の消去

サーバーを未使用時の状態に戻して最初から電源投入処理をやり直すには、サーバーの構成情報を消去する必要があります。

▼ 構成情報を消去する

1. Solaris OS のプロンプトで、次のように入力します。

```
# sys-unconfig
```

2. 「空の」サーバーを作成することの確認を求められたら、*y* を入力します。
3. OpenBoot PROM プロンプトが表示されたら、次のように入力します。

```
ok> boot
```

4. 次のいずれかの手順を実行します。
 - 14 ページの「ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用して設定する」
 - 14 ページの「ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用せずに設定する」
 - 15 ページの「スタンドアロンサーバーをはじめて設定する」

Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアへのアクセス

この節では、Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) ソフトウェアの概要について説明します。ALOM の詳細な説明および構成情報については、『Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) 1.6 管理マニュアル』を参照してください。

ALOM ソフトウェアは、サーバーにプリインストールされており、サーバーに電源を入れるとすぐに起動します。ただし、いくつかの基本的な設定手順を実行して、使用するアプリケーションに合わせて ALOM ソフトウェアをカスタマイズする必要があります。

▼ ALOM プロンプトを表示する

1. デフォルトのキーストロークシーケンスを入力します。

```
# #.
```

注 – はじめて電源を入れたあとに ALOM プロンプトに切り替えたときは、admin ユーザーとしてのログインとなり、パスワードの設定を求めるプロンプトが表示されます。一部のコマンドは、このパスワードを設定しないと実行できません。

2. パスワード指定のプロンプトが表示されたら、admin ユーザーのパスワードを設定します。

パスワードは、次の条件を満たす必要があります。

- 2 文字以上の英字が含まれていること
- 1 文字以上の数字または特殊文字が含まれていること
- 6 文字以上の文字列であること

パスワードを設定すると、admin ユーザーには完全なアクセス権が与えられて、すべての ALOM CLI コマンドを実行できるようになります。

▼ コンソールプロンプトを表示する

- 次のように入力します。

```
sc> console
```

サーバーコンソールのストリームには、同時に複数の ALOM ユーザーが接続できますが、コンソールに文字を入力できるユーザーは 1 人だけです。

ほかのユーザーがログインして書き込み権限を持っている場合には、console コマンドを実行したときに次のメッセージが表示されます。

```
sc> Console session already in use. [view mode]
```

